

おめでとうございます
春の叙勲・褒章

旭日小綬章

伊東和幸さん

(70歳・小野)



伊東さんは相馬市出身。昭和62年4月執行の市議会選挙で初当選し、以来7期28年にわたり市議会議員を務め、総務常任委員会委員長や産業福祉常任委員会委員長などを歴任されました。

市勢の伸展や東日本大震災からの復興などに尽力されました。(伊東さんのコメント)

大変栄誉ある章をいただいて光栄です。今後の人生を市民の皆さんのために役立てていきたい。

瑞宝単光章

齊藤安弘さん

(68歳・山上)



齊藤さんは相馬市出身。昭和47年に市消防団に入団し、約40年にわたり相馬市の予防消防活動に従事してきました。

平成16年から6年間市消防団第5分団長を務めたほか、退団後は、地域の消防団のOB会を結成し、地域の安全安心に尽力されています。(齊藤さんのコメント)

名誉ある章をいただいて感激しています。今後も地域のために活動していきたい。

藍綬褒章

米本薫さん

(65歳・新沼)



米本さんは相馬市出身。昭和58年に市消防団に入団し、35年以上にわたり相馬市の予防消防活動に従事されています。

平成30年度から市消防団副団長として、消防団員の育成や災害時の陣頭指揮などに尽力されています。(米本さんのコメント)

家族の支えがあつてこそこの受章です。今後も消防団員に命の大切さを伝えつつ、市民の安全に尽力していきたい。

地域を守る 自主防災組織認定証交付式

自主防災組織への認定証交付式は5月15日、市役所で行われ、高村拓男中村西部第4区自主防災会会長が訪れました。

自主防災組織は、地域住民が協力・連携し、災害から自分たちの地域を自分たちで守ることを目的に結成する組織で、同会で73組織目。

立谷市長は高村会長に認定証を手渡し、「中村西部地区に自主防災組織ができたことを大変ありがたく思います。」

海の恵みを蓄えた



今シーズン初のアサリの水揚げは5月18日、相馬双葉漁業協同組合松川浦支所で行われました。

地域の防災に協力をお願いします」と述べました。



アサリ試験操業

同支所の船着き場から25隻が出港し、試験操業で約250キログラムのアサリを水揚げ。放射性物質検査の結果、検出限界値未満であり、水揚げされたアサリは市内を中心に流通しました。

山下博行相馬双葉漁業協同組合理事松川浦地区代表代理は「新型コロナウイルスの影響もあるが、市内の飲食店でおいしく食べてほしい」と今後への期待を述べました。

アサリの試験操業は、8月まで週2回程度行われる予定です。

長年の活動に感謝 少年センター補導員



市少年センター補導員連絡会感謝状贈呈式は5月28日、市役所で行われ、千枝浩美さ

ん(今田)、安良美佐子さん(尾浜)の2人が出席しました。この感謝状は、補導活動などを10年以上務めた補導員が退会した際に贈られるものです。

当日は、武田一奉同連絡会会長から受賞者に感謝状と記念品が手渡されました。

●受賞者の詳細は下記のとおり(順不同、敬称略)

▽千枝浩美(八幡地区・23年)

▽安良美佐子(中村東部地区・14年)

地域防災力強化のために 消防団協力事業所認定

市消防団協力事業所認定証交付式は5月21日、市役所で行われ、立谷市長が植村賢二株式会社小野中村代表取締役役に認定証を手渡しました。

同認定制度は平成22年4月から開始し、市消防団活動に協力している事業所などを認定するもので、消防団員の確保や地域防災力の充実・強化などの推進を目的としています。

同事業所の認定は平成30年に続き2回目で、有効期限は令和4年5月20日までの2年間です。



被災農地の営農再開へ 要望書を提出

5月29日、渡邊孝喜山上第5行政区長ら5人が市役所を訪れ、立谷市長に「令和元年台風並びに大雨災害により、水稲栽培不能による農家農地維持に係る助成措置の要望」を提出しました。

本要望は、令和元年東日本台風などの浸水被害により水稲栽培が不能となった農地の維持管理および営農再開への助成を要望するものです。

要望書を受け取った立谷市長は「作付け再開までの間の支援を十分に検討したい」と述べました。



ホッキ貝を今季初水揚げ

相馬双葉漁業協同組合

相馬双葉漁業協同組合によるホッキ貝の水揚げは6月1日、磯部漁港で行われました。当日は今季初の出漁で、2隻の漁船が試験操業として出港し、約500キログラムのホッキ貝を水揚げ。

放射性物質検査の結果、検出限界値未満であり、水揚げされたホッキ貝は磯部水産加工施設で加工され、県内外に流通しました。

相馬産のホッキ貝は柔らかく甘みが強いのが特徴。



試験操業は来年1月末まで、週2回程度行われる予定です。

ホシガレイの稚魚初放流

福島県水産資源研究所

壁沿岸で、昨年から続いて2度目となるホシガレイの稚魚の放流を行いました。

放流されたホシガレイの稚魚は、同研究所がふ化させ、約6〜8センチメートルまで飼育したものです。

6月2日、3日の2日間で約8万匹が放流されました。ホシガレイの稚魚は、約2年で30センチメートル程度に成長する予定です。



福島県水産資源研究所は6月3日、松川浦大橋付近の岸

災害に備えて
日立木小・幼避難訓練

日立木小学校・幼稚園の避難訓練は6月5日、同小学校・幼稚園で行われました。訓練は、地震や津波などの

災害から、安全で迅速な避難の方法を学ぶために実施。

児童らは、地震発生の校内放送が流れたあと、教師の指示に従い一斉に校庭に一次避難し、その後津波を想定し百尺観音駐車場へ二次避難を行いました。

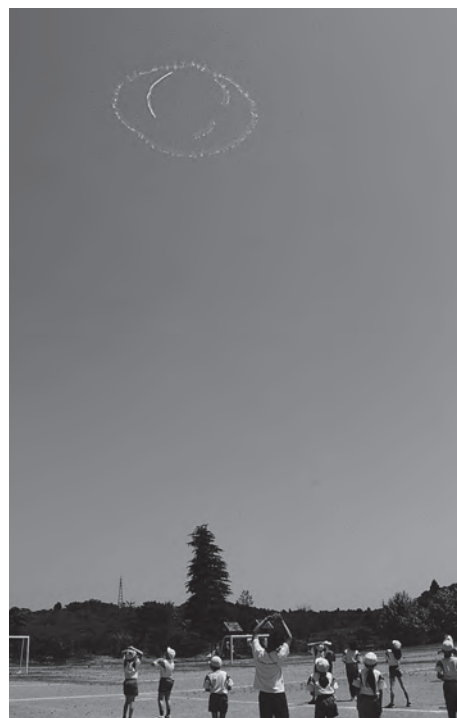
加藤裕紀日立木小学校長は「2年ぶりの開催ではあったが、臨機応変で迅速な避難訓練ができた。今後の減災に役立てたい」と述べました。

また保護者引き渡し訓練として、迎えにきた保護者と一緒に防災への意識を高めました。

青空の下でサツマイモ植え
八幡幼稚園

サツマイモの苗植えは6月11日、八幡幼稚園で行われ、園児21人が参加しました。

参加した園児たちは、ふくしま未来農業協同組合そうま地区地域支援課の田部知洋さんの指導を受けながら、園庭に準備した12個のプランターにサツマイモの苗を丁寧に植えました。

笑顔で大空を見上げる
大野小学校・幼稚園

「Fly for ALL #大空を見上げよう」プロジェクトによるフライトは6月9日、本市上空で行われ、大野小学校と幼稚園の児童・園児約180人が校庭に集まり、大空を見上げました。

同フライトは、エアレースパイロット室屋義秀さんが新型コロナウイルス感染症の感染拡大でストレスを感じている県民を元気づけるため、県内を小型プロペラ機で飛び、青空に白のスモークで笑顔のマークを描くもの。

室谷さんは、4日に県内中通り、9日は県内浜通りの各市町村の上空をフライトしま

した。

当日は、多くの方が青空に描かれたマークを笑顔で見上げていました。

民生委員・児童委員
厚生労働大臣
特別表彰

民生委員・児童委員への厚生労働大臣特別表彰伝達式は6月2日、市役所で開かれ、栃久保淑子さん（玉野）、前山万里子さん（原釜）、澁谷光昭さん（沖ノ内）の3人に立谷市長から賞状と記念品が手渡されました。



同表彰は15年以上、民生委員や児童委員として地域社会の福祉向上に貢献された功績に対し贈られるもの。

立谷市長は「行政の基本は生活に窮している状態を少しでも緩和することにあります。民生委員・児童委員としての長年のご労苦に感謝します」と述べました。

皆さんありがとう！

多くの皆さんから、新型コロナウイルス感染症の感染対策のためにサージカルマスクなどを寄贈いただきました。

いただいたサージカルマスクなどは、市内の医療機関や各小学校などに配布し、有効に活用しています。



5月14日
サージカルマスクなどを寄贈
成田食品グループ



5月18日
サージカルマスクを寄贈
アルプスアルパイン(株)



5月18日
防護服などを寄贈
相馬共同火力発電(株)



5月21日
地域経済支援のための寄付金
相双五城信用組合



5月21日
サージカルマスクを寄贈
フジモールド工業(株)



6月1日
新型コロナウイルス感染症対策のための寄付金
蔵王リース(株)



5月26日
サージカルマスクを寄贈
BODY MAKE STUDIO GYM+とスター代行



6月3日
歯磨き剤などを寄贈
相馬市歯科医師会



6月1日
サージカルマスクを寄贈
(株)アイ・テック